

レトロ駅舎彩る 豆紙人形

梅光女学院出身マサコ・ムトーさん作品79点

復元の門司港駅に寄贈、展示

4歳から17歳まで下関市で過ごした梅光女学院卒業生のマサコ・ムトーさん(1913〜2006年)の豆紙人形作品が北九州市のJR門司港駅に寄贈された。次女で横浜市のヒロコ・ムトーさん(73)が下関市役所を訪れ、三木潤一副市長に報告した。



マサコさんは「表現する」という女学生時代からの夢を追い、70歳でパステル画を始めた。その後は手のひらサイズの「豆紙人形」で子どもの頃の思い出や日本の風習などを表し、作品は海外でも展示された。

同駅に寄贈した作品は79

点で、「女性の髪形の変遷」「聖書物語」など五つのテーマに分け、季節やイベントごとに展示される。現在はみどりの窓口横で「子ども遊びや懐かしい風景」25点を展示中。

ヒロコさんは「晩年に夢をかなえた母の希望のメッセージがたくさんの人に伝わってほしい。今後は下関でも見ていただけたら」と話している。

●マサコ・ムトーさんの作品について説明するヒロコ・ムトーさん(右)11日、下関市役所へ寄贈された豆紙人形(JR九州提供)

